

泰明小学校の保存再生計画

小学校とチルドレンミュージアムとの融合

高田直美

制作主旨

銀座の繁華街に、昭和初期、復興小学校として建てられたモダンな小学校がある。新様式であるセセッション・アールデコの影響によるデザインが用いられ、東京都の歴史的建造物にも選定された泰明小学校である。現在、こういった復興小学校も少子化の影響で徐々に廃虚化しつつある。従って、歴史的に見ても価値のあるこの泰明小学校が廃校になる可能性も十分に考えられる。現在、泰明小学校は、学区外からの越境入学で生徒数を確保しているが、今後、少子化によってその数が一定に保たれるとは限らない。そこで、そういった生徒数の変動に対して、フレキシブルに小学校の空間を変えることができるプログラムを現在の泰明小学校に付加する。そうすることで、泰明小学校を新たな方向性で存続していく可能性を見出せるのではないかと。そこで、銀座5丁目という非常にポテンシャルの高い土地を利用し、日本で必要とされながらも事例の少ないチルドレンミュージアム（子供専用美術館）と小学校との融合の提案を行う。生徒数の変動に対して、美術館と小学校空間との比率をフレキシブルに変えることが可能であり、今後、生徒数が減少し廃校になった場合は、小学校部分はすべて美術館となり、新たな機能へと変換され保存・存続されていくだろう。

講師評：高宮真介

昭和初期の表現主義的な学校建築の多くが姿を消してしまった今、泰明小学校は歴史を語るかけがえのない建築になりつつある。しかし有楽町という場所柄、そのたたずまいに特異な印象を受ける。この作品はそれを調停するプログラムとして、チルドレン・ミュージアムを合築し、その文化的価値を保存しながら再生していこうという提案で興味深い。

前世紀後半、各自治体は競ってハコモノ美術館をつくってきたが、今その運営に四苦八苦している。しかし、これからの美術館のあり方として、どうしても避けて通れないのが、教育の場としての活用であろう。折しも新学習指導要領による完全週休二日制と「総合的な学習の時間」の受け皿として、我が国でもチルドレン・ミュージアムが注目されてくるのではないだろうか。

この作品の提案は、そのような背景を考えると評価されているし、合築の仕方、機能的な解決もリアリティがある。しかし肝心の泰明小学校の保存というテーマに対して、何を、どのように、なぜ保存していくかという具体的な提案がみられなかったのが残念であった。また、既存建物や増築部分も含め、構造的な解決方法に対する提案がほしかった。



東側



西側



高速道路より



中庭空間



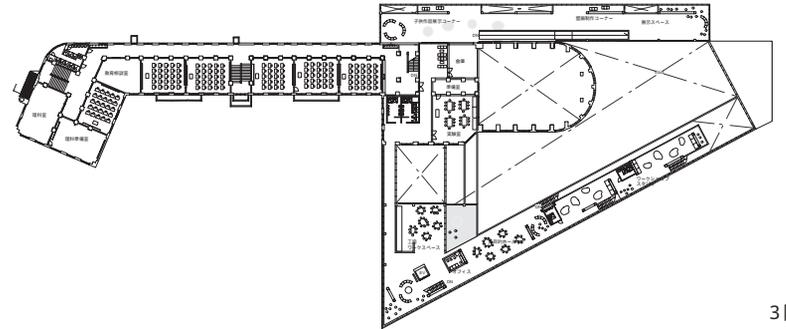
裸足のミュージアム



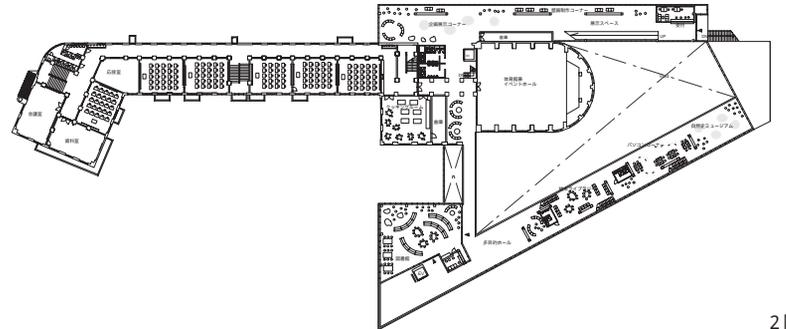
音のミュージアム



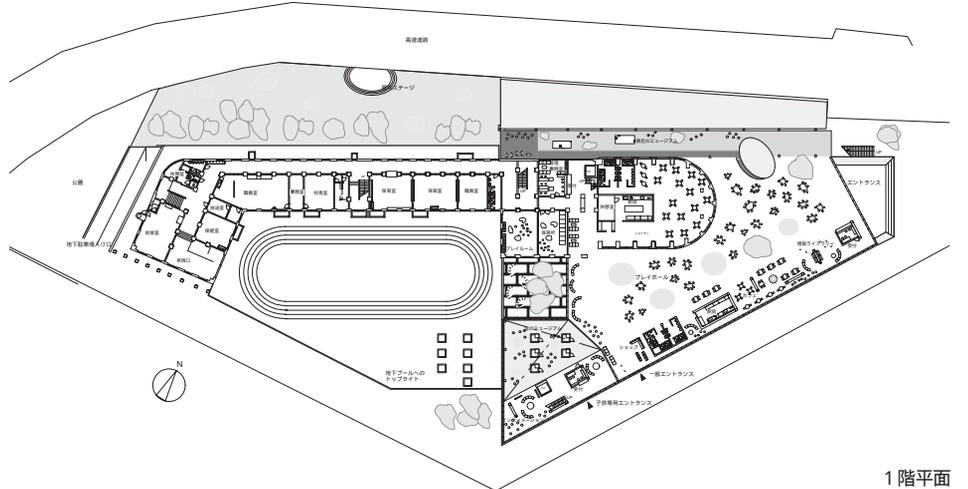
交差点より



3階平面



2階平面



1階平面



南立面